

令和7年司法試験 合格体験記

令和3年度修了(未修コース) 重富 結菜

1. はじめに

16期末修の重富結菜と申します。この度、令和7年司法試験に合格することができました。まずは、この場をお借りして、これまでご指導くださった先生方、先輩方、そして温かく支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

私は、本学に入学後、本格的に法律の学習を始め、4度目の挑戦で合格いたしました。このため、効率的な学習方法については、より優秀な方々に委ねることといたします。代わりに、合格に偶然はあっても不合格に偶然はないのではないかと思いますので、私が不合格を経験した原因と合格に向けて心掛けたことについて記したいと思います。

来年度より受験方式が変わるため、どの程度皆さんのお役に立てるかは分かりませんが、何か参考になることがあれば幸いです。

2. 不合格の原因と合格に向けて心掛けたこと

私が合格までに時間を要したのは、完璧主義かつ心配性な性格ゆえにインプットに偏った学習をしたことと、他者から答案添削を受ける機会を積極的に持たなかったことが原因だと考えています。

合格に向けて、直近の合格者から継続的に答案添削を受けるよう心掛けました。また、本学の各種ゼミでは、問いに答えるという基礎を押さえるとともに、どのような視点で問題文を読み、何をどのように答案に反映させていくかという思考過程を合格者に言語化していただき、自分の中に落とし込むよう心掛けました。答案の型、思考方法、書き方の癖。多くのフィードバックをいただき、素直に取り入れて修正しました。そのほかに取り組んだことはなく、新たにインプットした知識も多くはありませんでしたが、模試の点数は約80点伸びました。たまたま自分に合った方法だったのでしょうが、同じような量・深度で知識を有していたとしても、いかに活用するかで評価は変わるということをお伝えできればと思います。

「合格者の暗黙知を知ること」は試験の合否を分ける分水嶺となり得ます。知識量については過度に懸念する必要はないかと思います。先生方の手厚い指導の下、学習を進めれば、合格に必要な知識は十分に身につきます。むしろ、知識の活用法を工夫されるとよいかもしれません。

3. 最後に

学習の成果が結果に表れず、不安や焦りを感じる時期もあるかもしれません。しかし、思うようにいかない経験も決して無駄ではなく、やがて自分自身や周りの人を支える力になると感じています。時には立ち止まりながら、また前を向いて学習を続けていただければと思います。

皆さんの学生生活が実り多いものとなることを心より願っております。